

「寝たきり社長 佐藤仙務の挑戦」 塩田芳享 著 致知出版社

佐藤仙務（さとうひさむ）さんは、株式会社仙拓の創業者・代表取締役社長。平成3年生まれだ。ITを活用し、障害者雇用も推進している。

佐藤さんは脊髄性筋萎縮症を患っている。筋肉がどんどん動かなくなる難病だ。佐藤さんは、病をめぐるあれこれがあるって19歳で起業した。その「あれこれ」を含め、ジャーナリスト塩田芳享（しおだよししたか）さんが丹念に取材した著書が『寝たきり社長 佐藤仙務の挑戦』だ。

佐藤さんの活躍ぶりは、『ガイアの夜明け』（テレビ東京系）というTV番組で5月に紹介されたそうだ。

以下に、『寝たきり社長 佐藤仙務の挑戦』の「あとがきにかえて」に、佐藤仙務さんが寄せた文章を引用する。

気付けば、塩田さんとはかれこれ三年ほどの付き合いになった。

親子ほど年の離れている僕らだが、僕は塩田さんとお会いするたびにこんなことを考えてしまう。「年齢ってなんだろう。障害ってなんだろう」。人は生きていく中でさまざまな困難にぶち当たる。すると、多くの方はそんな時にこういう言葉を口にするのだ。

「～だから、仕方がない」。もう年なんだから仕方がない。女性として生まれたのだから仕方がない。何より、障害者である僕の周りで多いのが「障害者だから仕方がない……」という人だ。僕も障害者として生きてきたわけなので、そんな人たちの気持ちはわかる。けれど、僕は「障害者だから仕方がない……」。と嘆きながら、悲しみに暮れ、生きていきたくないのである。

僕はこの世に生を享けた。神様は僕に対しては無愛想だし、微笑みもしてくれなかった。しかも、障害という過酷な試練までも与えてきた。だから、嫌になることはたくさんあった。もう死にたいと思ったこともあった。でも、塩田さんと出会い、僕は一つ大きなことに気がついた。それは神様が僕に与えたものは「試練」なんかじゃなくて、本の中で塩田さんが書いた「天命」だったのだ。

「佐藤くん、俺は君にならできるといつも信じているから」

これまで、塩田さんに何度もかけられた言葉だ。この言葉を聞くたび、僕は本当に、力強く、背中を押してもらえる。——僕にだって、できることはたくさんあるんだ。

そして最近、ふと思うことがある。塩田さんは神様が僕に送り込んだ使者なのかもしれないと。

そしてもし、この本を神様が読んだら——ちょっとだけ微笑むかもしれないと。